

《型試合》

極真空手の型試合となりますが、現況多くの極真空手団体(極真以外団体含めて)があり同じ型でも型名、型内容が異なる場合がありますので、それぞれ各団体、道場で普段稽古している型で競技してください。よって、細かい動作の異なる部分は減点の対象とはなりません。

それぞれの動作の力強さ、技の切れ、気迫、気合などを重視した採点となります。

初級 予選型 太極その3 決勝型 平安その2 白帯～5級まで出場可
中級 予選型 平安その4 決勝型 突き型の型 白帯～黒帯(何段でも)出場可
上級 予選型 最破 決勝型 五十四歩 白帯以外は出場可

型試合は審判の採点の合計数により順位を決定します。同点の場合は第1優先最高点、第2優先最低点の高い方とし、それでも同点は同点者を決勝進出とし、決勝戦の場合は審議とします。

人数が少ないカテゴリーも予選型を行います。各カテゴリー予選、決勝を続けて行います。

参加人数(抽選により試合順番決定)	決勝戦進出人数(決勝は予選の低得点者から先行)
2人～5人	2人
6人～8人	3人
9人～12人	4人
13人～19人	5人
20人以上	6人

上級型優勝選手は午後の開会式にて優勝型を演武披露して頂きます。

【試合進行、順番について】(試合直前の抽選により順番決定)

一人ずつ順番に型競技を行い、3人の審判による採点の合計点により順位を決定致します。(同点は最高点、最低点の順で優位決定)

採点は5.5 6.0 6.5 ではなく、6.0 6.1 6.2 6.3～6.9と少数点が0～9まで有ります。
上記の表の通り、参加人数により、決勝進出人数は異なります。

【試合方式は下記の通りとなります】

例1、黙想から始まらない型 例えば「太極その2」

《アナウンス》「ゼッケン 350 番横浜太郎！」選手入場。《主審》「正面に礼！」 右手を上げたのを合図とし。

《選手》型の名を言う「太極その2」 型を開始～なおれ、まで行い、型終了 《主審》判定取ります！判定！

《アナウンス》「6.3. 7.2 6.8」 「ただ今の得点は 20.3 です」《主審》 「正面に礼！」 選手退場。

例2、黙想から始まる型 例えば「平安その1の型」

《アナウンス》「ゼッケン 355 番東京太郎！」選手入場。《主審》「正面に礼！」 右手を上げたのを合図とし

《選手》黙想！型の名を言う「平安その1」型を開始～なおれ、まで行い、型終了 以下、上記と同様です。

極真空手の型競技として勝敗の判定基準は「力強さ、気迫」が第一優先、「正確性」を第二優先として判定致します。(型を正確に行った選手が、正確性に欠けるが力強さ、気迫に勝る選手に負ける可能性もあります)